

工学院大学校友会 東京支部
創立15周年 記念講演会

開祖 渡辺洪基先生の功績

工学院大学理事長 大橋秀雄

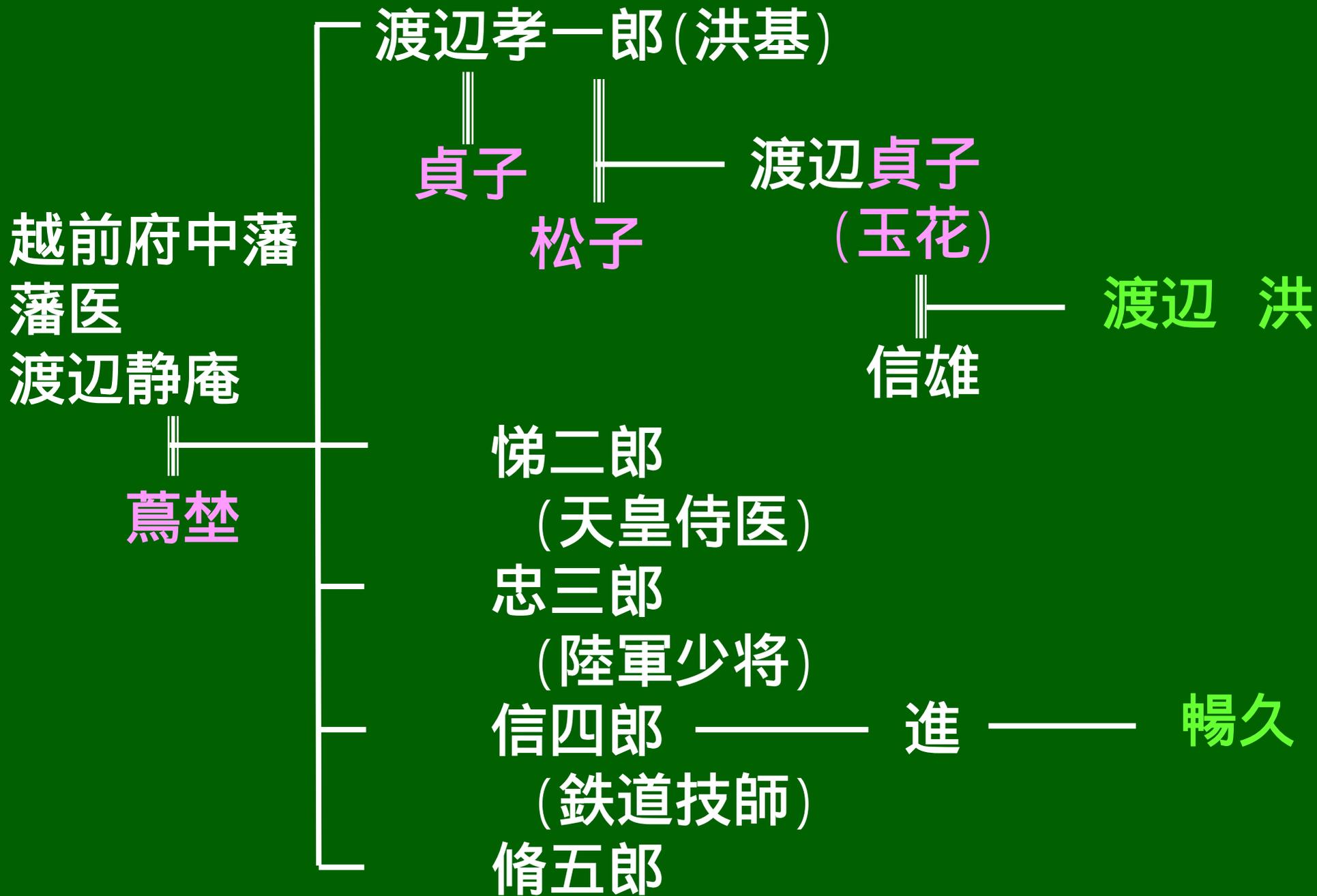
2006年10月15日 新宿キャンパスアトリウム

1847-
(弘化4)



-1901
(明治34)

渡辺 洪基



- 東京府知事(第9代、38才)
- 帝国大学総長(初代、39才)
- 工手学校設立、特選管理長(40才)
- オーストリア、スイス特命全権公使(43才)
- 帝国議会委員(45才)
- 両毛鉄道社長(45才)、北浜銀行頭取(49才)
- 勅撰貴族院議員(51才)

明治2年 21才の洪基が 明治新政府に提出した**建白書**

現在の急務は内乱を終結させて、**富国強兵の基盤作り**を行うこと。 その方策として：

- 私利私欲を捨てて**公益を重視**する
- 国内の争いを止めて、**外国に目を向ける**
- 外交は**信義を重んじ**、説得交渉につとめる
- **法律の改廃**は極力避け、大衆を惑わさない
- **兵数を適切化**して支出を抑制する
- **学術の進歩**を図り、勉学を奨励する
- 既往の罪を許し、**各自職を得て産業に従事**する

洪基の中核能力

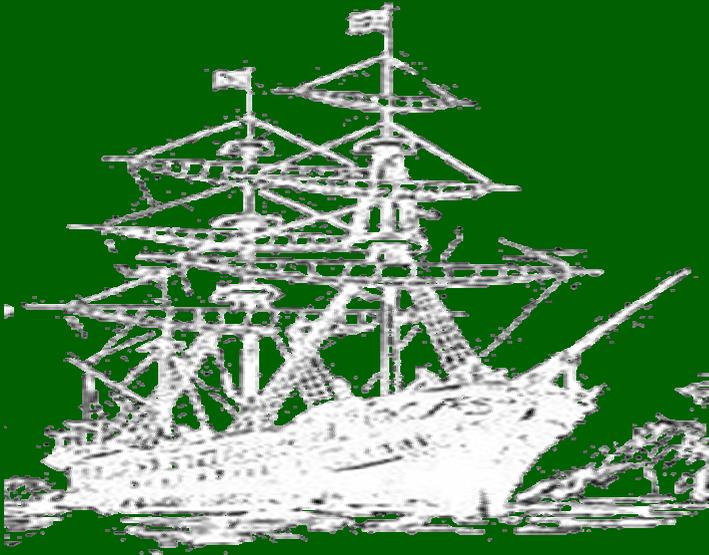
Core Competency

- 強い向上心と集中力
- 英語力
- 先見性と合理性
- 作文力を中心とする説得力
- **曲げない信念**
- 清廉な人格

明治4年
24歳

岩倉具視遣外使節団の随員
として渡米

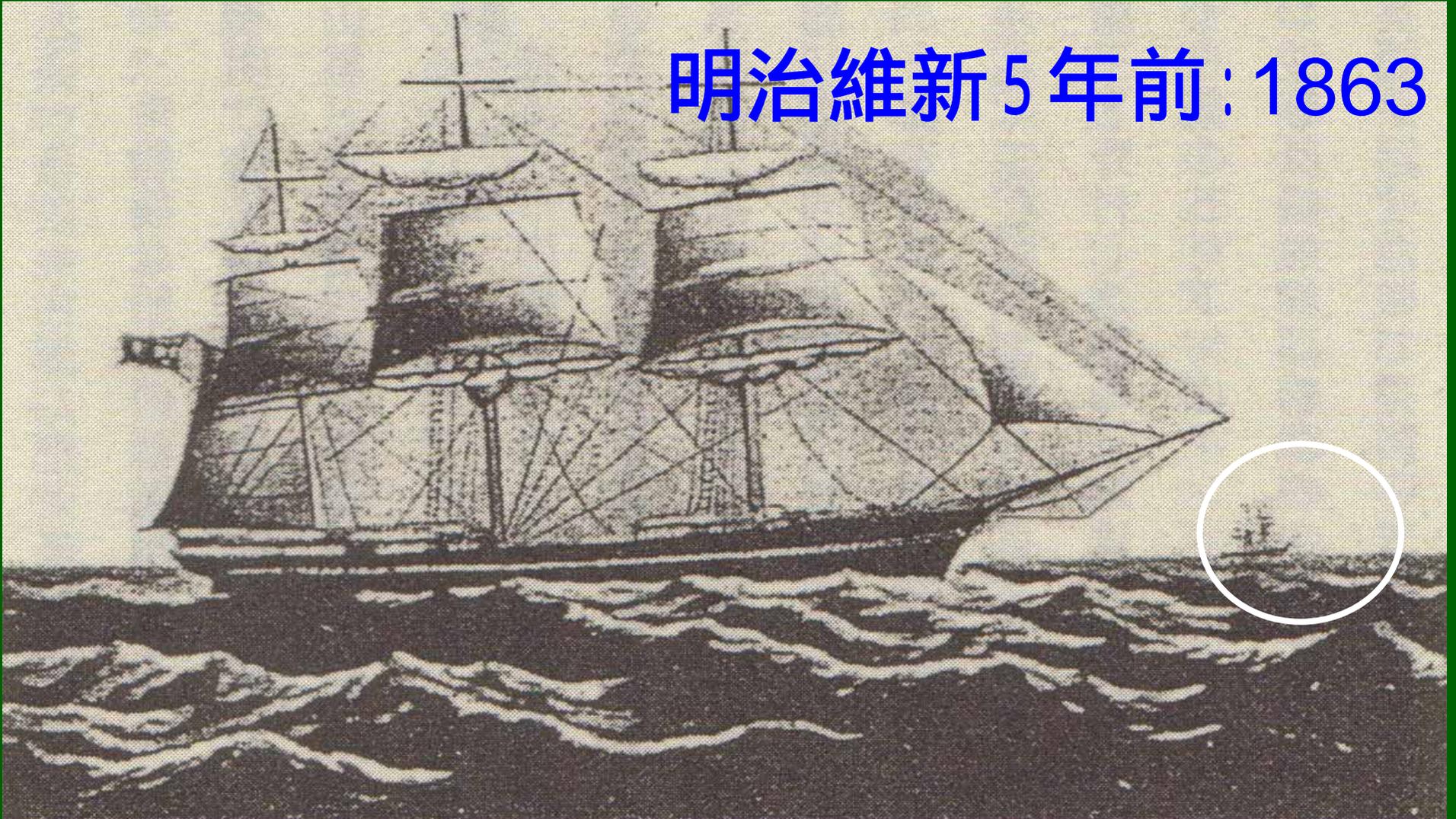
アメリカン丸



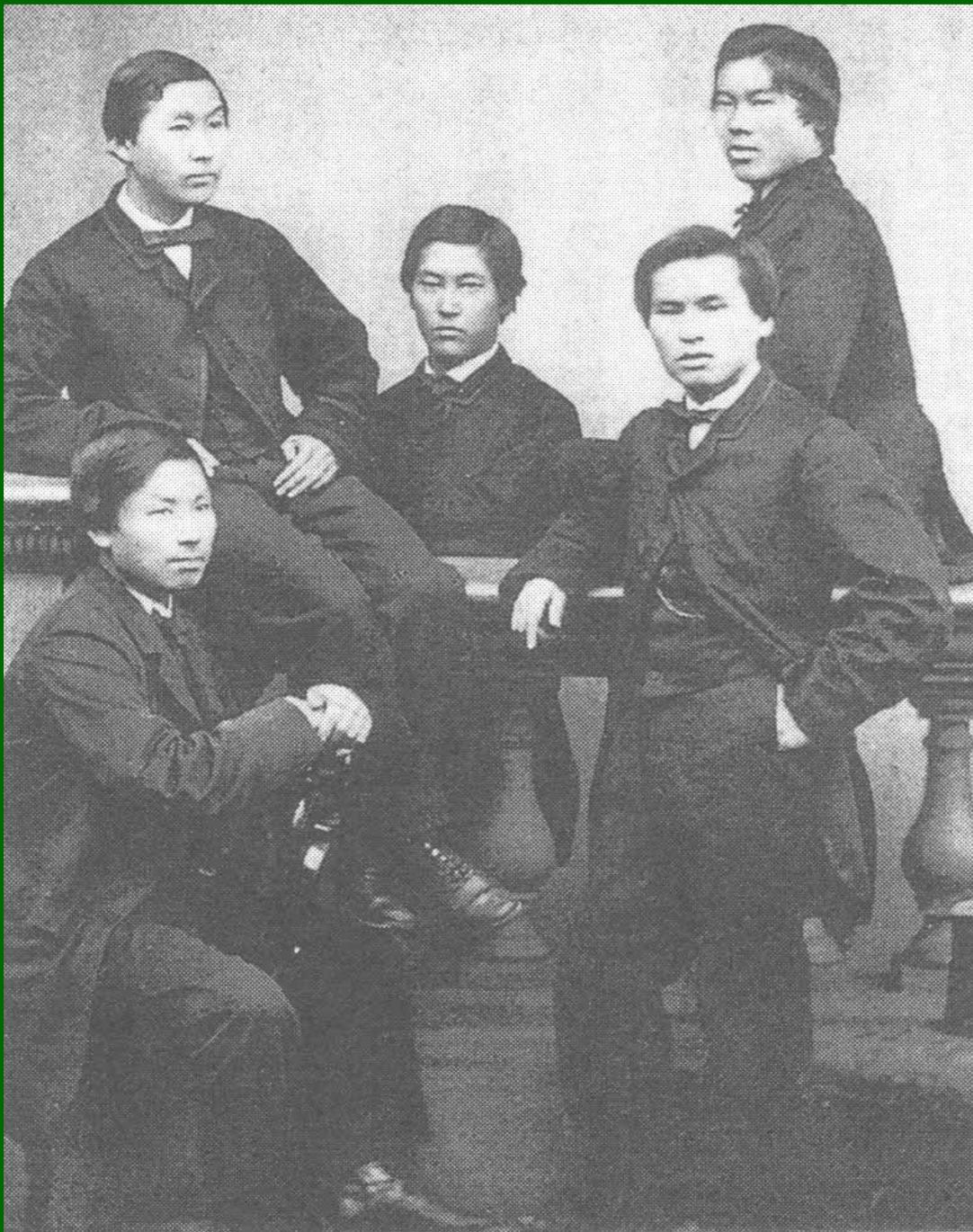
壮年期の洪基

- 27 - 29才: オーストリア、イタリア公使館勤務
二等書記官
- 30 - 34才: 学習院次長として華族学校の立ち上げ
- 34才: 集会条例の起案 (原敬との協力)
- 35才: 外務省を辞し、原敬と全国行脚
- 36 - 37才: 元老院議官として徴兵令、国立銀行条令などの立案
- 37才: 工部省副次官として制度改革
山尾庸三との出会い
- 38才: 東京府知事
- 39才: 帝国大学総長、40才: 工手学校設立

明治維新5年前:1863



5人の長州藩密航者を乗せてロンドンに
向かう2隻の帆船



長州5傑

伊藤 博文

井上 馨

山尾 庸三

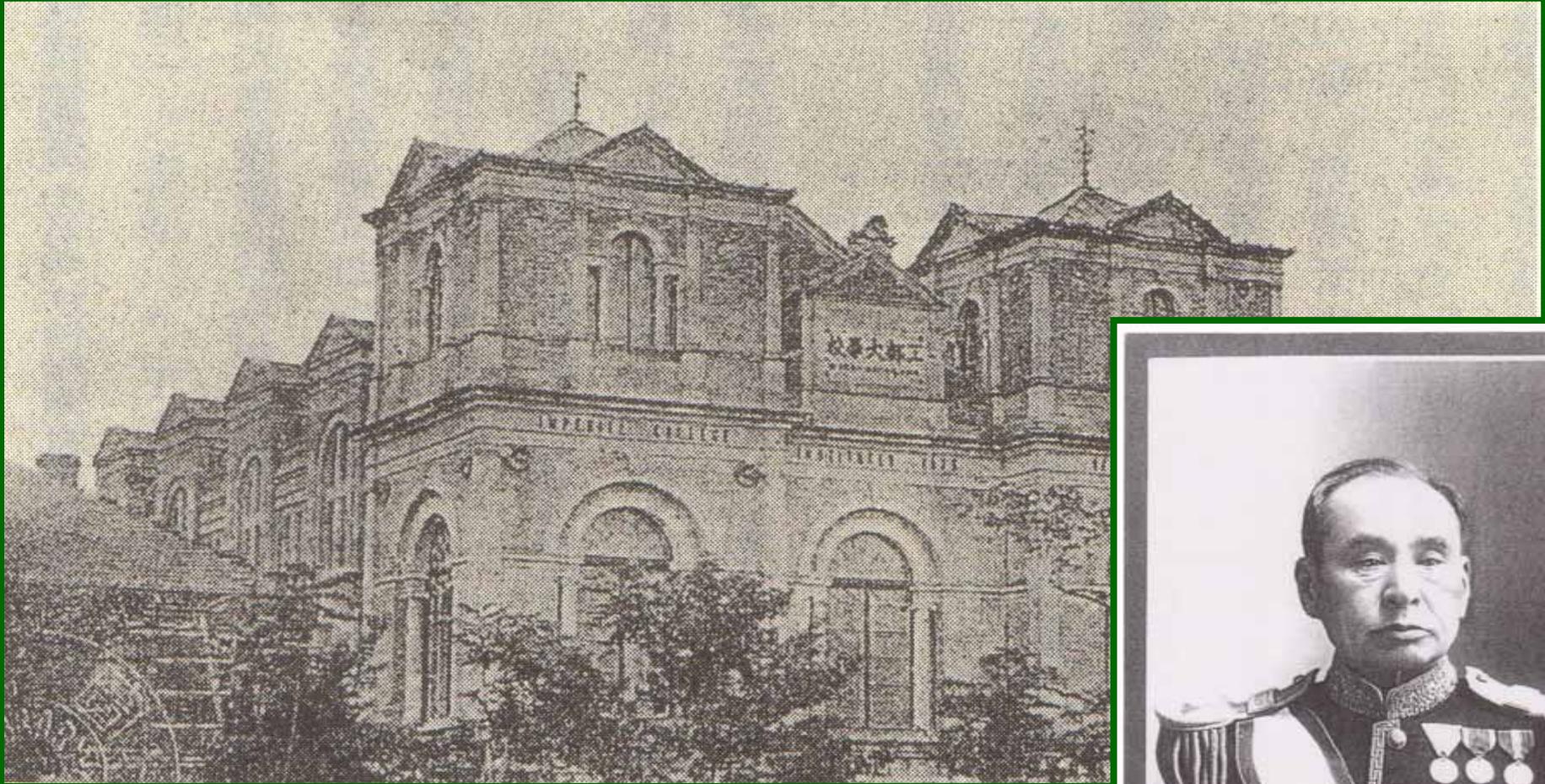
井上 勝

遠藤 謹助

技術者育成のための高等教育機関 設立の働きかけに対し：

反対論： 未だ我国に於いて為すべき工業なし。学校を立て人を作るも、何の用をか為さん。

山尾の主張： 仮令当時為すの工業無くも、人を作れば其人工業を見出すべし。



工学寮(1873)、工部大学校
(1877)、帝国大学工科大学
(1886)へと発展



山尾庸三

渡辺洪基

苦心して育て上げた

工部大学校 

第1回卒業生

中村貞吉、辰野金吾

帝国大学総長

工科大学併合

自ら学長事務取扱

学長 古市公威

工学会(明治12年工学士の集まりとして設立)

会長

副会長

として工学の発展に尽力

工手学校設立の機運が生まれる

技術者倫理の教祖

明治25年、工学会における演説の中から：

- 医者には医者の責任がある
- 工学を学んだ工学士は、ますます責任が重い
- 工学士の職務であつたら、どこまでも遣る
- おぼつかないことは引き受けない
- 公衆の信用を得るように尽くす

技術者倫理の核心を掴んでいる



End